

今日から約一年半ほどの予定で「使徒の働き」を見ていきます。この手紙は、パウロの同労者、異邦人ドクターのルカによって、彼がパウロとローマにいた紀元61年頃に記されたといわれています。その名からもわかるように、ルカによる福音書の著者でもあります。彼の記したその両方の書物の宛先が「テオピロ」という人であるところから、この「使徒の働き」は、ルカ福音書の続きということが出来ます。ちなみに、テオピロとは、「神に愛されている人」または「神の友」という意味で、彼はローマ政府の高官であったようです。

ルカは、直接的にはこのテオピロに宛てて、この書を書き送ったわけですが、ここには主の復活後の約三十年間の歴史が記されていますから、ここから初代教会について多くを学ぶことができます。特に「教会とは？」「宣教とは？」「神様はどのように働かれるのか？」といった問いに対する答えを、この書は与えてくれるでしょう。そして、私たちがそれを単なる過去の出来事として終わらせるのではなく、今日も神様の宣教の働きが続けられていると信じ、自分自身を主にささげて仕えるなら、私たちもまた、この「使徒の働き」の大切なパートに加えられるのです。

では、福音宣教は、主の弟子たちによっていつ始められたのでしょうか？もちろん、主が十字架にかかれる前から、彼らは主に遣わされて、人々に福音を語っていました。けれども、本当の意味で、主イエスが約束のメシヤ（救い主）であること、つまり、その十字架の死と復活をもって信じる者を救われる方であることは、彼らが聖霊を受けた後、つまり、今日の箇所です主が説明された後ということになります。

私たちのために十字架の苦しみを受け、贖いの死を遂げられた主イエスは、三日目によみがえられ、40日の間、弟子たちに現れました。そして、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを示されたのです。そして、天に上って行かれる前に、弟子たちにこう命じられました。4-5節「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。5 ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです」。

主イエスは、よみがえられたご自分を弟子たちに示すことだけでは、彼らのご自分の託す働きをする者になることは期待されませんでした。つまり、彼らをして、人間的な力を超えた神の力、つまり、聖霊を受けるまでは、主は彼らにご自分の証人となることを求められなかったのです。なぜですか？聖霊を受けることなしに、人がキリストを証することはできなかったからです。ですから、主は、エルサレムを離れず、ご自分から聞いた父の約束としての聖霊のバプテスマを受けることを待つようにと弟子たちに命じられたのです。

私たちはまずこのことを心に留めたいと思います。使徒の働き、つまり、教会の働きとしての宣教は、彼らが自分の考えや力で始めたものではないということです。それは聖霊によって始められました。弟子の立場からするなら、それは聖霊を待ち望むところから始まったということもできるでしょう。では「聖霊のバプテスマ」とは、どういう意味ですか？それは「聖霊に浸る、満たされる」ということです。ヨハネのバプテスマは、罪の悔い改めとして水に浸ることを意味しましたが、聖霊のバプテスマは、神様の霊（御子の御霊）に浸ることを意味します。それによって人間的なものを超えた神様の力に満たされるためです。

では、なぜ弟子たちは聖霊による神様の力を受ける必要があったのでしょうか？それは主の昇天後、彼らが主の弟子として生きていくためですが、その歩みの最も重要な部分を主は8節で語っておられます。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」。

弟子たちをして、聖霊を待ち望み、それによって満たされる理由、それはキリストの証人となる「力」を受けるためでした。「力」というと、日々の信仰生活を送るにあたり、必要な励ましや慰めといった助けのようなものをイメージされるかも知れません。もちろんその通りですが、では、なぜそのような助け、力が必要なのかというと、それは主を信じる者がキリストの証人となるためです。主イエスが神の救い主、すばらしい主人であることを、いつでも、どのような時でも証言できるために、すべての信仰者には聖霊の満たしが必要なのです。

この「力」とは、ギリシャ語では「デュナミス」という言葉ですが、それは「ダイナマイト」の語源となっているものです。つまり、主を信じる者に聖霊を通して与えられる力、それはちょっとした励ましや慰めどころではなく、もっと大きな爆発的な神様の力が意味します。それによって主を信じる者はいつでも、どんな時にも主ご自身とその救いのすばらしさ、その確かさを大胆に証することができるのです。

主イエスはここで、「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたし（キリスト）の証人となる」と言われましたが、この時、弟子たちがいた所、それがエルサレムです。そこで彼らが聖霊に満たされることで、彼らはユダヤとサマリヤの全土といったイスラエルの全地へ、さらには地の果てまで、わたしの証人となる、と主は預言して言われました。そして、その主のおことば通り、弟子たちは聖霊を受け、また導かれて、地の果てまでキリストの証人となって行ったのです。

聖霊というお方は、私たちの目には見えません。ですから、自分が聖霊を受けているのかよくわからないという方もおられるでしょう。でも、それは主の十字架の死と復活による贖いを信じているかどうかで知ることができます。というのは、主が十字架で死なれたということは、誰でも知ることができます。でも、その死が私の罪のためであった、つまり、本当は罪に対する神のさばきを受けるのは自分なのに、それを主が十字架で代わりに受けて下さることで、私は赦されているということは、この世の知恵、人間的な理解では到底受け入れることができません。なぜなら、それは愚かに思えることだからです。

でも、みことばを通して聖霊が語り、それに対して心を開くなら、そのことを神様が自分のためにして下さったことと信じることができます。主イエスを自分の救い主として信じることができるのです。このことは主の復活についても同じです。私たちには主の復活を人間的な理解では信じることはできない。でも、みことばを聞き、そこに聖霊の働きを受けることで、信じようとする者に、聖霊がその確信を与えて下さるのです。

ですから、「よくわからない。言葉では上手く説明できない。でも主イエスは私を罪と滅びから救い、また私を神の子とし、永遠のいのちを与え、天の御国に入れて下さる救い主と信じています」という信仰に今導かれているならば、それは聖霊によるものと言えます。つまり、あなたは聖霊を受けている。聖霊とは、そのように私たちに主の栄光を現して下さる方、主こそ救い主であるという確信に私たちを導いて下さるお方です。

では、どうでしょうか？聖霊を通して、主イエスを救い主と信じる信仰が与えられていることと、その聖霊に浸る、つまり、満たされることは同じでしょうか？言い方を変えるなら、主への信仰に導かれた信仰者はみな、いつでも、どのような時にも主の証人となっていますか？一度、主への信仰に導かれた人の言葉、態度、行動のすべては、常にキリストを証するものでしょうか？そうであることを願うわけですが、残念ながら、そうとは言い難い現実が、私たちのうちに、また私たちのまわりに見受けられるのではないのでしょうか？

私はここで聖霊について議論するつもりはありません。でも、そこにすべての信仰者が聖霊に満たされることをいつも待ち望むことの重要性を見ます。それは聖霊をまだ受けていないからではなく、聖霊に満たされることで、私たちのうちで自我が小さくなり、でも聖霊が私たちの心を支配し、その考えや生き方を導くようになるためです。私たちは自分が「この時！」と思う時だけ、聖霊とその導きを求めやすいと思います。でも、むしろ、聖霊が導かれるところにいつでも従えるよう、聖霊の満たしをいつも求めるべきではないのでしょうか。なぜなら、主の栄光は、私たちのタイミングや方法を通してではなく、主のタイミング、主の方法にゆだねる者を通して現されるものだからです。それが私たちをしてキリストの証人となるということです。

**6 節**「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか」。このように弟子たちは主に尋ねましたが、主はそれを否定はされませんでした。つまり、主は、イスラエルのために国を再興されることを肯定されたのです。では、それは選民としてのユダヤ人たちによる今のイスラエルという国の再興を主は意味されたのでしょうか？いいえ。主は、ご自分の選びの民としての新しいイスラエル、ご自分への信仰に生きる人々に約束された神の国を指してそう言われたのです。

では、それはいつ実現されるのか？主イエスが天に上って行かれるのを見ていた弟子たちに、ふたりの人（御使い）が現れ、彼らにこう語りました。11 節「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります」。

毎週のように語っていますが、皆さん、あなたは主の再臨を信じておられますか？終わりの日に、主が再び戻って来られ、その時、すべての人をご自分の知る者としての羊として、またご自分に関係のない者としてのやぎとして、より分けられることを信じておられますか？このことも、この世の常識、人間の考えを遥かに超えているゆえに、聖霊の助けなしには、誰も信じることができません。でも、すでに主への信仰へと導かれている者が、聖霊の満たしを求めつつ、みことばに心の目と耳を傾けるなら、聖霊がわからせて下さいます。そして、私たちの心を地上から天へと向けさせることで、キリストの証人とならせて下さるのです。

誰も最初からキリストの証人であるという人はいません。むしろ、すべての人がキリストを知らない者、敵対する者でした。自分がどれだけ罪深い者であるのか、どれだけ望みのない者かを私たちは知らない者だったのです。今でも知ったとは言えないでしょう。でも、そんな罪の自覚のない者のために、父なる神様は御子イエスを遣わすことを定められたのです。そして主は、その父の御心に従ってご自分のいのちを罪の代価としてささげ、十字架の死による贖いのわざを成し遂げて下さいました。そのようにして救いの道を備えて下さったのです。

そのことを私たちにわからせて下さるのが聖霊です。でも、それは私たちをして心において主の救いの意味を知ったというところに留まりません。聖霊は、私たちのうちに神様の爆発的な力を与えることで、私たちがいつでも、どのような時にも、キリストの証人となれるよう、つまり、その救いを喜び、それを言葉と行動のすべてをもって証する者とならせて下さるのです。ですから、聖霊の満たしとその導きを日々祈り求めることが大切なのです。

私たちは朝起きて、まず自分のことを考えるかも知れません。いや、いつでも自分のことを考えていることでしょう。でも「私」から始めるのではなく、「主よ、あなたのみこころは何ですか？みことばを通して私に語って下さい。私があなたに置かれたところで、いつもあなたを証できるよう助けて下さい。すぐ近くにいる人々、妻、夫、親、子ども、知人、友人、全く知らない人に至るまで、あなたのすばらしさを伝えるために、私を用いてください」と聖霊の満たしと導きを祈る者とさせていただこうではありませんか。そのように主に期待し、待ち望む者に、主はご自身の霊をもって臨み、みこころを行わせてご自身の栄光を現されます。